

事業報告書

令和4年度

社会福祉法人 大木町社会福祉協議会

令和4年度事業報告

1. 事業総括

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が続く中、規制も緩和され事業も本格的に再開し、本会においても地域福祉の推進のための計画策定や組織強化等、非常に実のある一年となりました。

具体的には、重点目標の3点として、まず、一つ目に地域福祉活動計画の策定による地域福祉の推進として、第2期地域福祉活動計画を町の地域福祉計画と併せて内容を検討し、町と社協が一つとなり福祉の充実へ事業を実施していく計画を定めることができました。

本計画は、本会の基本的な方針として位置づけ、今後、年度毎に各事業の目標を定め、計画的な事業の展開と進捗の管理を行い、理事会等へ公表、報告してまいります。

次に、二つ目の生活支援体制整備事業における大木ささえ隊の円滑な運営として、平成30年6月から発足した大木ささえ隊も令和5年度に向け、自治区と重複する役割を整理し、ささえ隊を自治区へ移行しました。今後、令和5年度からは、校区コミュニティセンターへ生活支援コーディネーターを配置（週2日）し、自治区、校区組織の地域の困りごとの解消に努めてまいります。

また、大莞校区で実施している移動支援については、町全体の課題として、令和5年度から全町へ利用を拡大し実施していきます。

最後に、三つ目の災害ボランティアセンターの設置・運営のための体制整備として、令和4年10月に関係団体等のご協力により、4年ぶりに災害ボランティアセンター設置訓練を実施することができ、運営に係る準備、職員の知識等を習得する貴重な機会となりました。訓練を通して、実務に応じた体制等を踏まえて、災害ボランティアセンター設置運営マニュアルを改訂することができました。

今後も職員一人ひとりが、住民の皆さまの困りごとを把握し、行政や地域、ボランティア団体等と連携し、必要な支援の実施に努め、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指してまいります。

II. 各事業報告

法人運営

1. 法人運営

大木町における社会福祉の向上を図るため、事業の健全な発展及び社会福祉に関する活動を活性化し地域福祉の推進を図り、行政や関係機関と協力して事業を実施しました。また、本会の活動方針となる地域福祉活動計画を策定し、今後、推進していく事業の位置づけを行うことができました。

さらに、組織強化のために2名の職員（嘱託）を募集し、令和5年度から採用しました。

2. 生活福祉資金貸付事業 <県社協受託事業>

低所得者、障がい者又は高齢者に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより経済的自立や生活意欲の助長、並びに在宅福祉と社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるよう事業を行いました。

また、貸付の対象とならない生活困窮者については、生活保護に至る前の自立支援を強化するために、生活困窮者自立支援法に基づき、福岡県自立相談支援事務所や町と連携を取りながら対応を行いました。その他、食料品等の現物給付も実施しました。

【貸付け実績】

相談件数 16 件のうち、貸付につながった件数 教育支援資金 2 件

【新型コロナウイルス感染症の発生に伴う生活福祉資金特例貸付】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業や失業などにより生活資金でお困りの方に向けて、令和2年3月から継続して、生活福祉資金の特例貸付を実施しました。この貸付は令和4年9月で申請終了となり、貸付後は、相談に対応しました。

①緊急小口資金 8件

緊急かつ一時的に生計の維持が困難となった場合に、少額の費用の貸付けを実施

②総合支援資金 5件

日常生活の維持が困難となった場合に原則3ヶ月以内の生活費用の貸付けを実施

③その他の支援

特例貸付を申請した84世帯に対して食糧支援の案内を送付したところ、そのうち13世帯が食料支援を希望し、希望者には本会のラインに登録していただきました。登録世帯には、合計34回の食料配布と併せてアンケートを実施し、必要な世帯(延

べ36件)には、相談支援を実施しました。また、令和5年1月から償還開始に伴い、償還の免除等手続きが12月から始まり、高齢者を中心に電話で確認をし、償還や免除申請の手続き支援を行いました。

【民生委員の調査活動協力】

本貸付事業の要請に基づく借受人の調査及び生活実態の把握を本会と情報を共有し、借受人等の自立更生に関する生活全般にわたる支援者として貸付け申込み時に、借受け対象者から事情を聴き、状況を把握したうえで意見書記入の協力をいただきました。

【研修等】

事務説明会(3回) 令和4年5月26日、9月28日、11月29日

3. 心配ごと相談事業

住民の福祉の増進を図ることを目的に、住民の日常生活上のあらゆる相談に弁護士が無料で応じ、適切な助言を行いました。事前に毎月4名まで予約を取り実施しました。

《法律相談件数》

令和4年度(令和3年度 43件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	4	4	2	1	1	3	4	3	4	3	4	3	36

(相談内訳)

家事関係19件、その他(民事)12件、クレサラ1件、消費者1件、知的財産権等1件、一般刑事1件、民事・刑事・行政以外各1件

相談日時 毎月第2火曜日(原則)13:30~15:00(1件当たり約20分)

相談員 福岡県弁護士会 筑後部会所属弁護士

4. 日常生活自立支援事業 <県社協受託事業>

社会福祉法に基づき、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等に不安がある方が住みなれた地域で安心して暮らせるよう日常的な金銭管理等のサービスを行いました。本人や家族、支援機関等からの新規の相談については、専門員が自宅等を訪問し、本人の困りごとや契約意思、契約能力を確認し、契約が可能と確認できたら支援計画を作成し契約を締結しました。その後は、生活支援員が支援計画に沿って定期的に自宅等を訪問し、生活状況の把握、および必要な福祉サービスの利用援助、日常的な支払い等の金銭管理や生活に必要な支援を行いました。

【福祉サービスの利用援助】

- ①福祉サービスの情報の提供や利用するための助言、開始・解約の手続き支援
- ②福祉サービスについて不満がある時、苦情解決制度を利用する手続き支援

【日常的な金銭の管理】

- ①年金や福祉手当等の受領に必要な援助
- ②生活費の定期的なお届け、お金の使い方についての相談、助言
- ③福祉サービス利用料や医療費、公共料金や家賃等の支払い援助

【書類などの預かり】

- ①社協金庫（50万円以内の預貯金通帳、印鑑など）契約者7人
- ②貸金庫（500万円以内の預貯金通帳など）契約者2名

《日常生活自立支援事業契約者数》

上段令和4年度 下段令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人員	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8
	8	8	8	9	7	8	6	6	6	6	6	7

【研 修】

- ①生活支援員研修会（初任者編）令和4年8月3日
- ②専門員研修会 令和4年6月10日、11月16日、令和5年2月28日

5. 生活困窮者支援事業（大木町社会福祉法人連絡会）

福岡県では、福岡県社会福祉法人経営者協議会を中心に社会福祉法人同士の連携による生活困難等の生活課題や地域の様々な課題に対する支援として「ふくおかライフレスキュー事業」を実施しています。本町でも令和2年度に町内7つの社会福祉法人で大木町社会福祉法人連絡会を立ち上げています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い会議については、各法人の意向を考慮し、未開催となりました。

ただし、各法人における公益的な取組状況等のアンケートを行い、各法人の現状を把握し、情報共有を行い、次年度は法人間でできる支援を検討していきます。

6. 生活支援費独自貸付け事業

生活が困窮し緊急に貸付が必要な人、生活福祉資金の貸付に該当しない人で、一時的に貸し付けることで生活の再建が可能な人に対して、10万円を限度に生活再建に必要な貸付を行いました。今年度の貸付は、すべて生活保護の申請後の初回受給までのつなぎ資金として対応しました。 貸付実績 3件

介護予防・日常生活支援総合事業

1. もみじ倶楽部事業 <受託事業>

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染防止に努め、事業を通常通り行うことが出来ました。今年度で、事業終了となり利用者は元気クラブや介護保険事業所へ移行することになりました。

《利用実績》

	実施回数	実人数			延人数	ボランティア
		男性	女性	合計		
4月	8	0	15	15	52	12
5月	7	0	13	13	46	11
6月	9	0	15	15	56	13
7月	9	0	14	14	59	14
8月	7	0	16	16	49	10
9月	9	0	16	16	62	15
10月	8	0	16	16	61	12
11月	7	0	15	15	47	11
12月	8	0	14	14	49	13
1月	8	0	12	12	41	13
2月	7	0	13	13	40	11
3月	11	0	13	13	68	19
令和4年度計	98	0	17	17	630	154
令和3年度計	86	3	23	23	665	93

* 令和4年度新規利用者2名、終了者3名（介護保険へ移行3名）

【特別プログラム】

- ①体力測定 国際医療福祉大学、高邦会の協力により実施 各年2回
(検査項目) 身長、体重、長座体前屈、TUG、2ステップ 他6項目、
認知機能検査
- ②口腔機能向上事業 (講話及び個別指導) 各年4回
- ③介護予防栄養講話 各年1回
- ④音楽教室 各年1回
- ⑤絵画教室 (町内在住イラストレーター松永潤二氏) 各年1回
- ⑥パステルアート 谷口敏之氏 各年1回
- ⑦クリスマス会 (職員の出し物ほか) 各年1回
- ⑧バスハイク 各年1回

2. 元気クラブ <受託事業>

買い物支援が必要な高齢者で、外出機会が少なく閉じこもりがちな方等を対象に、自宅から会場、店舗まで送迎し、日常生活に必要な買い物と介護予防体操、脳トレーニング等を行い、体力作りを行いました。

《利用実績》

	実施回数	実人数			延人数	ボランティア
		男性	女性	合計		
4月	4	0	13	13	49	8
5月	5	0	13	13	59	10
6月	4	0	13	13	47	8
7月	4	0	13	13	38	6
8月	5	0	14	14	53	11
9月	4	0	15	15	53	9
10月	5	0	15	15	67	10
11月	5	0	15	15	49	8
12月	4	0	12	12	39	7
1月	4	0	13	13	45	8
2月	4	0	15	15	54	8
3月	4	0	15	15	49	12
令和4年度計	52	0	17	17	602	105
令和3年度計	52	0	15	15	392	58

* 令和4年度新規利用者3名、終了者2名（介護保険へ移行1名、転居1名）

* 7月19日は、大雨の予報のため、希望者のみ午後から買物支援を実施。

【特別プログラム】

- ①体力測定 国際医療福祉大学、高邦会グループの協力により実施 年2回
身長・体重・血圧・TUG・SPPB・4m歩行・握力・体組織測定
- ②理学療法士による体操指導 年4回

【研 修】

スタッフ研修 5月2日（もみじ倶楽部と合同）

3. 認知症カフェ事業(カフェ「WEWE」) <受託事業>

認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしができるように正しい知識の啓発活動または、家族の介護負担の軽減を図るために誰もが集える居場所を提供しました。今年度は新たに「WAKKA (ワッカ)」、「こっぼーっと」をカフェ会場に加え開催。SNS(LINE)にて開催情報を発信することで利用者が日程を確認することができ利用者の増加につながりました。午前中は、脳トレプリント、体操、ゲーム、回想法DVD鑑賞等をし、午後は手芸などして自由に過ごし、時間内は自由に出入りし、楽しみながら利用できる雰囲気づくりを心掛け住民同士が気軽に交流し、相談できるよう努めました。

また、ボランティアによる会場運営のお手伝いにより担当職員が利用者へじっくり傾聴する時間をとることができました。

《カフェ「WEWE」利用実績》

	実施回数	実人数		延人数	当事者	家族	地域住民	ボランティア	事業所等その他	町内			町外
		男性	女性							大溝	木佐木	大莞	
令和4年度	34	8	44	428	33	7	363	18	7	244	153	23	8
令和3年度	16	3	28	111	3	7	101	0	0	73	35	2	1

【実施場所・回数・延べ人数】

- ・イオン大木店内 23回 318人 7月5日、9月6日は、台風接近中止
- ・大莞コミュニティセンター 4回 36人
- ・WAKKA (ワッカ) 3回 32人 2月14日イオン大木店へ変更
- ・こっぼーっと図書館 4回 42人

※7月26日から9月27日までは、12時までの時間短縮で開催

【個別相談】

- ・本人より物忘れが多くなったと相談（役場職員が同席し相談を受ける）
- ・近所の60代男性が仕事を辞め、引きこもり状態で心配と相談（健康福祉課へ報告）

【カフェ講話】

令和4年

5月10日「健康的に食事を摂ろう」低栄養予防について

8月9日「夏を元気に乗り切ろう」食生活編

- 11月 1日「高齢者のお口の健康について」
 - 11月 8日「脳を健康にする生活習慣」食生活編
- 令和5年
- 3月 7日「血圧の話と認知症予防脳トレ体操」

※新型コロナウイルス感染拡大予防としてマスク、検温、手指消毒、部屋の換気、机や椅子の間隔を取って実施しました。

4. 生活支援ホームヘルプサービス事業 <受託事業>

(1) 生活支援ホームヘルプサービス（高齢者）事業

日常生活に支障のある高齢者等に対してホームヘルパーを派遣することにより、安心して日常生活を営むことができるよう生活全般の支援を行い、高齢者の介護予防や、自立と社会参加を促進しました。支援内容は下記のとおりです。

- ①家事に関すること 調理、洗濯、掃除、買い物、その他必要な家事支援
- ②身体介護に関すること 入浴、洗髪、清拭、排泄、食事、その他必要な身体介護
- ③相談、助言に関すること 生活、身上、介護に関する相談、助言

《生活支援ホームヘルプ利用実績》

上段令和4年度 下段令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	3	2	2	1	1	1	2	2	2	1	1	1	19
利用者 延回数	4	4	4	4	5	3	4	4	4	4	4	3	47
	12	7	8	4	4	4	5	5	7	4	4	5	69

※サービス提供は1回45分

(2) 産前産後のホームヘルプ事業（介護予防・日常生活支援総合事業外）

今年度の支援依頼はありませんでした。（これまでの実績令和2年度1名利用）

居宅介護事業

1. 基準該当障害福祉サービス居宅介護等事業

障がいにより居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の意思及び人格を尊重し生活全般の援助、保健・医療・福祉サービスの連携に努め、居宅介護サービスを提供しました。1名の利用がございましたが、今後の状態の変化により支援が拡大していく見込みがあるため他の居宅介護事業所へ移行しました。

《居宅介護サービス利用実績》

	家事援助			身体介護			回数 合計	時間 合計
	利用者 実人数	利用 延回数	利用 延時間	利用者 実人数	利用 延回数	利用 延時間		
令和4年度計	0	0	0	1	13	26	90	180
令和3年度計	1	22	22	1	76	152	98	174

障害者自立支援事業

1. 指定相談支援事業所「おおき」＜受託事業＞

障がい者が日常生活で生じる様々な不安や課題に関する相談に応じ、適切な助言及び情報提供等を行い、福祉サービスなど関係機関と連絡調整をとりながら、必要な障害支援区分認定調査やアセスメント(事前評価)、計画作成を行いサービスの利用へ繋ぐ支援を行ってきました。しかし、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため定期的なモニタリング(状況確認)について、事業所に訪問し、利用者の様子を確認することが出来ない状況もありました。また、大木町地域自立支援協議会実務者会議についても、予定をしていた講演や視察研修が中止になりました。

《 障がい者等の相談件数 》 ※延べ数 上段令和4年度 下段令和3年度

身体障がい		重症心身		知的障がい		精神障がい		発達障がい		難病		その他	
者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
61	18	29	4	197	54	278	0	33	167	12	0	3	11
61	19	36	8	196	92	224	0	31	138	15	0	3	8

《 相談内容 》 ※延べ数 上段令和4年度 下段令和3年度

内 容	件数	内 容	件数
福祉サービスの利用に関する支援	797	保育・教育に関する支援	189
	593		235
家族関係・人間関係に関する支援	232	生活技術に関する支援	176
	233		198
健康・医療に関する支援	270	家計・経済に関する支援	40
	325		58
不安の解消・情緒安定に関する支援	314	就労に関する支援	77
	340		121
障がいや症状の理解に関する支援	200	社会参加に関する支援	6
	52		24
権利擁護に関する支援	11	その他	47
	6		0

【障害支援区分認定調査】

町の委託を受け、障害福祉サービスの利用に係る障害支援区分認定調査を実施しました。今年度も施設入所者の調査については、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、調査を実施せず、認定有効期間延長等の対策をとるケースもありました。感染状況が変化する中、調査実施については町と協議し、感染対策のもと、障がいのある方やその家族等に対して聞き取り調査を行いました。調査件数 37 件(前年度 30 件)

【就労相談窓口】

就労相談窓口では、障がい者雇用で勤務定着をされた方の近況報告への助言や精神疾患を理由に退職された方の今後について共に考える支援を行いました。

障がい者雇用での就労希望の相談が当事業所に舞い込むことはあるものの、その後の支援について「就業・生活支援センターぼるて」の支援が欠かせずスムーズな連携が図れること。また、障がいの特性や病状により「就業・生活支援センターぼるて」の久留米市内の事務所に出向くことが難しい方にとって、この就労相談窓口の継続は欠かせないため、今後も継続して実施していきます。

開設日時：毎月第4木曜日 14:00～16:00（祝日等の場合は変更）

開設場所：イオンスーパーセンター内 WeWe

相談対応者：就業・生活支援センターぼるて、指定相談支援事業所「おおき」各1名

相談実績（延べ件数）

令和4年度 9件（前年度18件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0件	2件	1件	0件	0件	1件	1件	1件	1件	1件	0件	1件

【フリースペースおおき】

前年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受けながら開催を行ったため、感染拡大防止策（マスク着用、参加者の検温・健康チェック、手指消毒、部屋の換気、時間短縮、食事の禁止等）を徹底し、大勢が交代で触るゲームは避け、1対1のゲームやDVD鑑賞などを行いました。

開設日時：月1回の日曜日 13:00～15:00

開催場所：イオンスーパー大木店内 WeWe

利用実績（実人数）

令和4年度 24件（前年度件23件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3名	3名	2名	2名	3名	2名	3名	2名	2名	0名	1名	1名

10月は、石丸山公園の音楽イベントに参加。11月は、さるこいフェスタに参加しました。

2. 計画相談支援事業・障害児相談支援事業

《 計画相談数 》 ※実人数

上段令和4年度 下段令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規計画	27	9	5	15	6	9	20	8	9	7	7	24	146
	17	6	5	19	8	7	13	4	12	6	9	18	124
モニタリング	8	14	27	11	22	14	5	11	29	10	6	12	169
	16	21	12	6	30	17	17	17	29	12	15	11	203

【相談員担当者研修】

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ① 障害支援区分認定調査員 初任者研修 | 5/27 |
| ② 福岡県相談支援従事者 初任者研修 | 7/5～10/28 |
| ※ 職員2名、それぞれ右記期間中6日間ずつ受講 | |
| ③ 発達が気になる子の理解と支援委ついで研修会 | 6/22・7/6 |
| ④ 福岡県相談支援従事者現任研修 | 9/26・10/19・11/15・12/14 |
| ⑤ 精神障がい者就労支援関係者研修会 | 10/4 |
| ⑥ 精神障がい者支援関係機関研修会(地域包括ケア) | 10/14 |
| ⑦ 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会 | 10/28 |
| ⑧ 認定調査員フォローアップ研修 | 10/31 |
| ⑨ 民生委員児童委員協議会 視察研修同行(太陽の家、大分県) | 11/8～9 |
| ⑩ 福岡県自殺未遂者支援研修 筑後ブロック | 11/18 |
| ⑪ 医療的ケア児コーディネータースキルアップ研修 | 12/23・2/17 |
| ⑫ 令和4年度相談支援従事者専門別コース研修(意思決定支援) | 2/16 |

【会議等の出席】

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| ① 大木町要保護児童対策地域協議会 実務者会議 | 6/23・9/1・12/8・2/15 |
| ② 八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会 | 8/18 |
| ③ 地域自立支援協議会 担当者会議 | 12/27 |
| ④ 大木町地域自立支援協議会(全体会) | 3/20 |

包括的支援事業

1. 生活支援体制整備事業 <受託事業>

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、大木ささえ隊（協議体）の活動を自粛する時期がありましたが、活動方針を決め、課題の解決に向け進めることができました。重点的に進めた活動の1つとして、令和3年度より行政区から自治区への移行が行われており、各自治区・各校区組織は、大木ささえ隊と同じ役割を持つ組織であることから、大木ささえ隊（協議体）及び町と大木ささえ隊の見直しについて検討、その役割を各自治区・各校区組織へ移行し、生活支援コーディネーターが活動のサポートを行うことになりました。

2つ目として、移動手段がない高齢者が買い物へ行く手段に困っているという課題があり、解消するために、大莞校区でモデル的に移動支援を継続して実施しました。また、地域の実情に応じた事業が実施できるように、送迎ボランティア養成研修を開催し、担い手づくりを行いました。また、運転希望者は1名のみ。さらに、協議体の会議でも、事故を考えるとボランティアが担うのは難しいとの意見等を踏まえ、令和5年度は、移動支援の主体を協議体から一度、町へ戻し、移動支援を実施することになりました。

(1) 地域課題の把握および資源等の開発

①各校区の活動

大溝校区では、毎週金曜に実施している移動販売地区（6地区）とグリーンコープ生活協同組合との意見交換会を開催し、季節のスイーツフェアや大木町指定ゴミ袋の販売、地区からの要望を取り入れたカタログの配布を行いました。

ただし、今後、利用者が少ない販売地区については、ニーズが多い地区への変更を検討していきます。

また、グリーンコープ移動販売と協同した町商店（フードショップ石川）の商品をボランティアが代行販売する買い物支援活動では、タブレットを導入し、作業の効率化を図りながら販売を実施しました。

木佐木校区では、買い物支援を町の商店（アスタラビスタ）と協議を行い、買い物の必要性が高い地区の情報を提供し、移動販売車（とくし丸）が20か所で開始しました。また、大木団地ではアンケートを実施し、必要性があったため、5月から大木団地でとくし丸による移動販売を開始しました。さらに、民生委員児童委員へ移動販売について周知し、買い物に困った高齢者へ情報を提供することができました。

大莞校区では、令和3年度荒牟田・吉祥、小入地区で移動支援（買い物）を実施し、令和4年8月には野口中野・中村区を追加実施しました。

しかし、移動支援の担い手づくりとして、大莞校区での送迎ボランティア養成研

修の開催を進め募集しましたが、参加希望者はありませんでした。

移動支援利用実績 利用登録者 11名

実績	回数	延べ人数	新規利用者
令和4年4月	4	14	荒牟田区1名
5月	3	8	
6月	5	13	
7月	4	9	
8月	3	12	野口中野区1名、中村区1名
9月	5	17	野口中野区1名
10月	4	13	野口中野区1名
11月	3	8	
12月	4	21	
令和5年1月	4	13	
2月	3	18	
3月	5	23	
計	47	169	

②町全体（大木ささえ隊作戦委員会）の活動

自治区（行政区）・校区・町全体でのささえ活動の充実を図るために、1地区につき1万円の助成金を39地区へ交付しました。

また、各校区ささえ隊の取り組みの共有と大木ささえ隊の見直しを行いました。

(2) 地域活動等への支援

地域活動の担い手の養成として、前期と後期で全8回のボランティア養成研修を開催しました。全日程修了者は大木町ボランティアとして登録し、各ボランティア活動へ繋げていきました。（令和4年度修了者15名。うち、ボランティア活動へ5名参加）

(3) 行政との連携

行政会議とコーディネーター会議を月1回開催し、今年度からは、シルバー人材センターの就労的活動支援コーディネーターも参加し、地域活動支援や高齢者の活躍機会等について情報共有を行いました。

(4) 広報

大木ささえ隊における活動状況やボランティア養成研修の情報を社協だよりや本会ホームページ、SNS（LINE）にて情報を発信しました。

【活動報告】

①校区部会役員会 3回

- ②大木ささえ隊作戦委員会 1回
- ③各校区コミュニティセンターでの老人クラブ申請書類受付 10回
- ④各校区組織協議・座談会 12回
- ⑤移動販売意見交換会 4地区
- ⑥移動支援説明会 1地区1回
- ⑦サロン説明会 1回
- ⑧社協だより 大木ささえ隊活動の記事を掲載 4回
- ⑨地区いきいきサロン訪問 13地区18回
- ⑩大木町ボランティア養成研修
前期、後期(1クール4回)
新規登録者 15名、合計登録者 148名 (うち、令和5年3月末32名活動)
- ⑪大木町ボランティアステップアップ研修
ボランティア養成研修を修了し大木町ボランティアとして登録された方に対して、
継続した知識及び技術の向上として、ステップアップ研修を開催。
前期 参加者26名、後期 参加者21名
買い物支援ボランティア研修会 参加者6名

【職員研修等参加】

- ①生活支援コーディネーター研究会 1回
- ②筑後地区生活支援コーディネーターの会 4回
- ③地域ケア会議 5回
- ④コーディネーター会議(町・シルバー人材センター・社協) 8回
- ⑤運動定着事業会議 3回

2. 小地域活動「ふれあいいいききサロン」の推進

小地域を拠点に高齢者の閉じこもりや寝たきり防止、仲間づくりや生きがいづくりを目的として、地域住民が集える場づくりであるサロンの普及に努め、29 行政区 22 サロンが活動しています。茶話会、レクリエーション、健康・介護予防の体操、多世代交流

NO.	サロン名	開催回数	延べ人数	NO.	サロン名	開催回数	延べ人数
1	いきいきサロン大角東	10	76	12	蛭池北・中・南区いきいきサロン	7	106
2	古賀いきいきサロン	3	86	13	侍島いきいきサロン	2	77
3	いきいきサロン牟田	13	199	14	八町牟田青春クラブ	6	106
4	十間橋いきいきサロン	7	103	15	八町牟田下「和サロン」	101	533
5	福間いきいきサロン「福寿会」	9	145	16	絵下古賀	2	40
6	笹淵「光サロン」	8	202	17	上木佐木中「コスモス」	5	74
7	前牟田東いきいきサロン	4	79	18	上牟田口いきいきサロン	4	135
8	道本いきいきサロン	7	127	19	上八院上ふれあいいいききサロン	9	109
9	堀田いきいきサロン	7	150	20	上八院下ふれあいいいききサロン	12	153
10	五反田いきいきサロン	4	87	21	高橋よかよかサロン	3	86
11	上白垣ふれあいいいききサロン	13	69	22	荒牟田いきいき和加波サロン	16	303

等、各地区の特性を活かした活動が行われました。

【健康づくりセミナー】

ふれあいいいききサロンのリーダー育成の場として、老人クラブ連合会と協働でセミナーを開催しました。セミナーを修了者には、“おおき健康隊”のポロシャツを配布し、町内の地域活動や各地区のサロン活動のリーダーとして活動していただくこととしています。

また、過去の修了者へも継続して、おさらいセミナーを実施、参加していただき、介護予防等に広く役立つ内容について研修し、地域の高齢者の健康づくりに貢献していただきました。

①健康づくりセミナー

全5回 令和4年6月15日、7月20日、8月10日、9月20日、10月12日

参加人数 23名、修了者 18名。(うち新規修了者は4名)

これまでの修了者は、128名。修了後は、おおき健康隊員として活動

②おさらいセミナー 令和5年2月1日 参加者18名

講師 株式会社健康科学研究所 健康運動指導士 植木 真氏

【ふれあいいきいきサロン連絡協議会】

町内のサロン同志の情報交換を行い、どの地区もサロン運営ができるように連絡協議会を設置しています。6月と1月に開催し、各サロンの活動状況の情報共有を行いました。

また、3月には大木町老人クラブ連合会との合同で「大木町みんなが主役の元気な地域づくり大会」（サロン大会）を開催し、体操・地区サロンの発表・講演を通し、活動の大切さを再認識、共有することができました。（参加者 114名）

【大木町老人クラブ連合会 事務局】

本会では、大木町老人クラブ連合会の事務局を担当し、老人の福祉の向上、大木町老人クラブ連合会活動及び単位老人クラブ活動を推進しています。特に老人クラブ女性部の活動では、新しく「カラーコーディネート講座」を開催したところ、参加された方の多くが、非常に関心があり、パーソナルカラー（自分に似合う色）のお話などを受け、充実した講座となりました。次年度も会員の関心ある講座を実施していきます。

（主な事業）

①スポーツ大会の開催

・町グラウンドゴルフ大会・町ペタンク大会・南筑後地区老連ペタンク大会

②各研修会の実施

- ・スマートフォン教室 10回
- ・老人クラブとふれあいいきいきサロン合同研修会
「みんなが主役の元気な地域づくり大会」を開催
講演「これからの人生の楽しみ方、健康（心）の講座」
- ・女性部研修会「カラーコーディネート講座」

③愛の一声友愛訪問事業の推進

共同募金配分金事業

共同募金は、昭和 22 (1947) 年に、戦後復興のための民間の募金活動として始まりました。現在では、誰でも手軽に地域福祉に参加できる「自分の町を良くするための仕組み」として、法律に位置づけられ、全国で取り組まれています。

本会でも、共同募金（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金）に対する町民の理解を深めながら募金活動を実施するとともに、配分金を下記の 5 つの事業に分け、地域福祉の推進に有効に活用しています。

1. 高齢者福祉活動事業

①大木町老人クラブ連合会事務局支援

本会では大木町老人クラブ連合会の事務局を担当し、老人の福祉の向上、大木町老人クラブ連合会活動及び単位老人クラブ活動の推進、地域奉仕活動を推進しました。

②愛の一声・友愛訪問事業

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中で、高齢者が安否確認や話し相手、簡単な生活支援を行う見守り活動に対して助成しました。(助成件数 6 件)

③サロン事業

活動費として、22ヶ所の地区サロンへ助成金を 1 万円上限に助成しました。

2. 児童・青少年福祉活動事業

【福祉映画】

社会福祉への理解と関心を深め、思いやりのある心、感謝の心を育てるために、上映希望のあった小学校の児童を対象に福祉映画の鑑賞会を実施しました。

<実績> (参加者数 348 名)

学校名	実施日	参加児童	参加人数
木佐木小学校	11月15日	1～4年生	計 221 名
大莞小学校	11月18日	1～5年生	計 127 名

【保育園・幼稚園・小中学校の福祉教育活動の推進】

福祉教育活動を実施する各小学校へ 4 万円の助成をしました。新型コロナウイルス感染症の影響により、中学校は未実施。また、保育園及び幼稚園は助成金の申請がありませんでした。

3. 福祉育成援助活動事業

【社協だより発行】

町民へ本会の事業や活動の理解と周知を図るため、「社協だより」を年4回（4月、7月、10月、1月）全戸へ発行しました。本会が実施している事業や各地区のサロン、福祉団体の紹介、各種セミナーの案内や事業報告・決算報告などを掲載しました。

【ホームページ公開】

トピックスに新しい情報を掲載し、本会の事業紹介、事業報告・決算報告、地域の福祉に関する情報等、福祉関連の情報を提供しました。

【福祉教育教材「ともに生きる」の配布】

子どもたちの福祉への関心と思いやりの心の育成をするために、福岡県社会福祉協議会が作成した教育教材「ともに生きる」を町内の希望された小学校の3年生に配布しました。 配布日 令和4年5月

【生活困窮者支援】

「フードバンクくるめ」や町内企業、住民の方からいただいた食品や野菜、日用品をひとり親世帯及び生活困窮世帯に対し、毎月1回、無料で配布しました。

また、支援にはボランティア団体との連携が必要なため、大木町食生活改善推進会に食事の調理を依頼し、カレーやいなりずし等の配布を行いました。

さらに、支援を受けた人にも準備や配布のボランティアを依頼し、お互いに支え、支えられる支援の体制づくりのきっかけとなりました。 配布世帯 延べ441世帯

4. ボランティア活動育成事業

ボランティア活動の育成として、ボランティア保険の助成、災害ボランティアセンター設置訓練、こどもフェア、健康福祉フェスタへの支援を行いました。町で活躍しているボランティア団体等を町民に広く知っていただくため、令和4年11月3日に「健康福祉フェア」を健康福祉課と合同で開催しました。各団体は、活動紹介や活動を披露し、実際に活動にふれていただいたことで、新たにボランティア活動団体へ加入された方もいました。

【ボランティア保険助成・健康福祉フェスタ参加団体】

大木町母子寡婦福祉会、みずゞの会、声のボランティアそよ風、ぬくもりの会、ハワイアン大木フラダンス、大木手品サークル、大木町手話サークル「なないろ」、さなぎの会（不登校を考える親の会）、げんき会（パソコンサークル）

【その他団体活動支援】

大木町母子寡婦福祉会へひとり親家庭の社会参加を目的に活動支援を行いました。
・新規加入の受付窓口、奨学金等の案内送付

【ボランティア保険料の全額補助】（町民のみ）

国内で起きた災害ボランティア活動や地域貢献のためのボランティア活動を安心して行っていただくために、事故などの補償問題を解決する重要な手段としてのボランティア保険の保険料の全額を助成しています。 助成実績 1名

5. 歳末たすけあい配分金事業

歳末たすけあい募金は、支援を必要としている地域の方が安心してその地域で暮らしていけるように、地域福祉活動等に配分されている募金です。令和4年12月1日から12月31日に寄せられた募金は、当年度の事業として町内の地域福祉活動に活用しました。

【ボランティア団体への助成】

本会に関わるボランティア団体に対し、活動計画の助成金申請に沿って活動助成金を支給しました。

（助成団体 8団体）

声のボアボランティアそよ風、ハワイアン大木フラダンス、大木手品サークル、大木町手話サークル「なないろ」、さなぎの会（不登校を考える親の会）、げんき会（パソコンサークル）、みずゞの会、大木町母子寡婦福祉会

【災害支援事業助成】

町内で起こった火事・災害等の被災者に対し助成を行います。
今年度は、該当者がいなかったため助成はありませんでした。

高齢者実態把握事業

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、これまで地域の通いの場等利用していた方々をはじめ、多くの高齢者が外出を控え、居宅で長い時間を過ごしている状況の中、高齢者の心身機能が低下する懸念し、新たな支援の必要性について検討することを目的として町から委託を受け調査を実施しました。

結果としては、8割～9割の人が健康で充実した生活を過ごしていました。

しかし、ウォーキングや外出をする機会が減っていること、転倒に不安を感じている人が4割、咀嚼・嚥下に不安を感じている人が2割程あり、課題を抱えている人の多くは後期高齢者で、さらに少数ではありますが、孤立や生活の質に問題を抱えていました。今後は、地域や個別にケアをする必要があります。

また、外出に自家用車やバイクを運転している人の多くが、免許返納した後は、外出支援や買い物支援が必要になっていく見込みです。

①調査対象者

- ・75歳以上の独居高齢者および高齢者のみ世帯（町が作成した名簿に基づく）
- ・65歳以上の高齢者で支援が必要と考えられる人
- ・その他必要と考えられる人

※すでに介護認定を受けている高齢者は除く

②調査結果

全体	調査実施者：335名、うち92名は令和2年度からの継続調査
大溝校区	調査実施者：143名、うち39名は令和2年度からの継続調査
木佐木校区	調査実施者：140名、うち35名は令和2年度からの継続調査
大莞校区	調査実施者：52名、うち18名は令和2年度からの継続調査

新型コロナウイルス感染症による療養者等への食料支援

町からの委託により、令和4年6月から新型コロナウイルス感染症による町内の療養者等へ療養中に外出できない、支援者がいないなどの理由による世帯へ感染対策を行いながら、食料を配布し、多くの療養者の方から感謝の声をいただきました。（配布実績159世帯）

苦情解決に伴う第三者委員会の設置

社会福祉法第82条により本会に、苦情解決第三者委員会を設置しています。

令和4年度中の苦情に関する受付はありませんでした。

今後も、委員の研修を開催し、苦情解決に向けた視点など知識向上に努めていきます。

災害ボランティアセンターへの設置、運営

大木町健康福祉センターを拠点とした災害ボランティアセンター設置・運営訓練を2日間にかけて実施しました。1日目は、センター運営側（女性消防団・大川青年会議所・大川市社協・町が協力）について講義を行い、2日目は、ボランティア役（女性の会・女性ネットワーク・社協役員が協力）も含め、設置・運営訓練を実施しました。訓練後は、実施状況を踏まえ、大木町災害ボランティアセンターマニュアルの見直しを行いました。

その他研修等

本会職員のスキルアップや情報収集、また他機関との情報交換や交流を目的に様々な研修に参加しました。

- ①市町村社協新任職員研修
- ②災害ケースマネジメントキャラバン
- ③防災士養成研修
- ④生活福祉資金研修
- ⑤高齢者等の就業支援先進地視察
- ⑥ライフレスキュー事業サポーター養成研修
- ⑦ライフレスキュー事業フォローアップ研修
- ⑧リスクマネジメント研修
- ⑨相談支援従事者初任者研修
- ⑩医療的ケア児コーディネータースキルアップ研修
- ⑪相談支援従事者専門コース別研修
- ⑫精神障がい者家族・支援者研修会
- ⑬福岡県自殺未遂者支援研修
- ⑭メンタルヘルスケア研修
- ⑮意思決定支援研修
- ⑯認知症カフェセミナー
- ⑰イオン子ども食堂フォーラム
- ⑱広報研修
- ⑲孤立を防ぐ地域づくり研修
- ⑳人権研修

